

昭和42年度決算

一般会計

歳入	410,787,738円
歳出	380,283,816円
差引き残額	30,503,922円

上水道事業

歳入	143,821,598円
歳出	96,213,216円
差引き残額	47,608,382円

国民健康保険事業

歳入	73,337,861円
歳出	63,637,004円
差引き残額	9,700,857円



消防署を設置

【消防費】常備消防の強化を計り、消防本隊、署を発足させた。この費用千四百五十万円、消防団の活動費四百六十六万円と貯水そう二か所の設置などの施設面に五百三十八万円の支出。

第二向陽小学校で校舎増築

【教育費】小学校費が四千六百七十三万円で七一・八%を占める。この内は、第二向陽小学校の六教室増築工事費千七百六十三万



円、ほかは小学校二校の経費です。増築した校舎は、社会教育、保健体育関係の公民館活動で、地域住民の視察を受けるのに一段かかっている講堂、スポーツ教室を合わせて、延べ七百一十一回、七万七千七百人が参加している。社会教育費、保健体育費を合わせて六百六十三万円になる。

【災害復旧費】昨年七月九日の集中豪雨により被害を受けた物集女地区のため池（須大寺池水路、主池、ドンド池）を、百五十五万円で復旧した。

【水道事業】ことし四月から地方公営企業法の適用を受けたため三月末で打ち切り決算を行なったので、差引き残額が例年に比べ若干多くなっている。（一般会計などは、五月末の出閉閉結で決算を行なう。）歳入一億四千三百八十三万四千九百六十二円、歳出九千九百六十二万四千九百六十二円、差引き残額四千七百六十六万四千九百六十二円、配水費四千六

百又トールを住宅地化を予定される町の西部丘陵地帯、吉戸北部の田園地帯に、千七百七十三万円で布設、ほか水源を確保するため、取水井戸一本を向日町浄水場と接続した。

【国民健康保険事業】全国の大部分の市町村が赤字運営を行ない、国に対して制度上問題があるのを改善を強く要望している。本町は、昭和三十五年の発足以来、苦しい内容であるが、赤字運営を保持している。これは、保険料が全国平均よりも若干高いこと、一般会計からの繰入金、赤字運営になることを警戒して、毎年、繰越金を確保していたことによる。

昭和四十二年度でも歳入七十三万三千三百円、歳出六十二万六千三百円、差引き残額九百七十七万四千九百六十二円、単年度収支では二百二十二万円の赤字となる。給付金を昭和四十一年一月から世界員を世帯主と子女の七割給付を実施したため、この年度は七・七給付により保険給付費の一四%増、医療費の七%増、受診料数も、万五千九百件と前年度に比べ四十八百件、二七・八%増加しているなど、楽観的な見直しは望めず、ますます苦しい運営になることが予想される。

この年度で注目すべきことは、府が市町村の苦しい運営を見かねて、国保事業へ初めて補助金（本町分四十三万四千九百六十二円）を交付した。

昭和42年度一般会計決算状況

